

れいんぼ—Topics





作家・慧風さんとのトークショー



青木省三先生の講演

新年、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

令和元年12月1日「はあとふるフェスタ2019」が開催されました。今年度よりイーストピアみやこを会場に、さまざまなアトラクション、地域活動支援センターみやこの作品展示などを実施し、来場した多くの方々に障がい者の理解啓発について発信をすることができました。共同開催となった、宮古圏域地域生活支援セミナーでは、第1部に作家の慧風さんより、当事者としてのこれまでの人生と創作活動についてのトークショーを、第2部では、青木省三先生の講演会を行いました。第1部、第2部ともに、多くの示唆を受ける貴重な機会となりました。協力いただいた皆様ありがとうございました。紙面の関係上詳しくご紹介できないのが残念ですが、当法人のホームページのブログにアップしていますので、ご覧いただきたいと思います。

さて、今年の干支は子です。子は十二支のスタートの年でもあります。時代や制度も目まぐるしく変わっていくなかで、レインボーネットに求められる役割も変化と進化が求められます。日々のアップデートはもちろんですが、これまでの礎を大切にしながら相談支援を展開していきたいと思います。(担当:高屋敷)

目次 CONTENTS

●れいんぼーTopics1	あの人にインタビュー 渡辺久子先生 8~9
●年頭にあたって	●はあとふるズームイン「地活センター」
●ザ・自立支援協議会 3~5	●2019地域懇談会を振り返って
●Report! 福祉の現場から 6~7	●なんでもKEIJIBAN、編集後記12

特定非営利活動法人 宮古圏域障がい者福祉推進ネット 会長 刈屋 裕之



な た令和元年が閉じ、また、 満ちた言葉で一年が締め括られ 一年が始まりました。 ム」という希望に 新た

関 · ても無くても皆同じに尊重さ だいて参りましたことに、 ご理解と心温まるご支援をいた 種々の事業に対しまして、深い 進ネット」の日々の目的・活動・ たち「宮古圏域障がい者福祉推 同心より感謝申し上げます。 ・地域の多くの皆様には、 はじめに昨年一年間、 さて私たちは、障がいが有っ 各位・たくさんの福祉施 同じ大きさの権利を主張で 関係機 職員

> ます。 界となり、皆がみんなが地域の 中の一人となり出来うる責任を はもう、区別のない平らかな世 見出していただけたなら、そこ 用は地域や行政が理解を深め 者への差別解消、 果たしていけるものと信じてい ただけたなら、彼らが持つ力を て、その事も一人ひとりの個性 と捉え、少しだけ心を傾けてい 法によって定められた障がい また障害者雇

す。 どうぞ皆さんにお願い ま

活している人たちの、 によって大きく人生が動き出. 無くても、そこで出会う人たち 下さい。そして一緒に並んで歩 客となって笑顔で声援を送って んでいただきたいと思います。 私たちは、 心ならずも障がいを抱えて生 障がいが有っても 優しい 観

きるはずなのです。

して参りたいと考えています。 になりたいと、今年一年を過ご と感じてもらえるような〝ひと〟 うち続いた災害が私たちを苦 この人と出会って、良かった

かな、 ながら、年頭のごあいさつとい ことができるような、「ワンチー な一年間でありますように祈り たします。 の宮古圏域となれる、新た そして皆が笑顔で過ごす



めることの無いような、穏や

ばならないと感じております。

舘崎 嘉伸 氏

(わかたけ学園)

整備や、医療的ケア児支援などの 項でもある地域生活支援拠点等の 今年度は、 昨年度からの協議事

られます。また、地域生活支援拠 当圏域が抱える地域課題と、 がい福祉計画・第1期障がい児福 展がなされてきました。 等で未だ課題が残る結果が見受け の拡充や相談支援提供体制の連携 祉計画の中間評価として、 '方向性について様々な協議・ 点等の整備に関して、今後更な 第5期 事業所

「ケア児支援も多様な課題に向ばと感じております。医療的協議が一層まい進して行けれ地域包括ケアシステム構築の を持って取組んで行かなけれ 私たちがやるべきことを信念 暮らしやすい社会にする為に かで障がいの有無に関係なく、 取巻く環境も変化して行くな 少子高齢化が深刻化して行き、 を進めております。今後更に 重要であるとの再認識で協議 の関係機関との連携が改めて かって協議を重ね、 かになり、今後の整備に向け、い圏域の課題や方向性が明ら 今年度はニーズ・課題調査を行 支援構築が課題となっており、 見据えた地域全体での包括的 る重度高齢化や「親亡き後」を 取巻く地域

実務担当者会議

権利擁護部会

機会として、成年後見制度利用促進 できました。また、部会では、

フォーラム及び権利擁護従事者研修

進と権利擁護の普及啓発に取り組

進

市村 幸子

(宮古市社会福祉協議会)

参画、 ナー等を開催し、 がい者差別解消支援地域協議会への 本年度の権利擁護部会では、 事例検討会や権利擁護セミ 障がい者の理解促 障

取り組んでいます。

境についての情報共有、

共通理解に

るとともに、障がい者を取り巻く環 討会等に出席し、スキルアップを図 の報告会、成年後見制度法人後見検



権利擁護部会

れました。 暮らしの不安を安心に変える内容 昨年度のセミナーの寸劇上映と成 開催した権利擁護セミナーでは、 機会になったとの声が多く寄せら 支援者等が成年後見制度を考える ました。 年後見制度の実践事例の紹介をし 十二月にイーストピアみやこで 障がい者、 適切な制度利用によって 高齢者、 ご家族、

に取り組んでまいりますのでよろ 門職等各方面の代表者の方で構成 圏域内の行政、 連携を図り、 も宮古圏域の市町村、 きる地域社会の創造に向け、 住み慣れた地域で安心して生活で 意見交換できる場であり、 されています。) くお願いします。 権利擁護部会は、 障がい者の権利擁護 様々な立場の方が 医療機関: 法律専門職 事業所等と 誰もが 福祉専 今後

(㈱かがやきライフ) 金沢 昌彦 氏

とスキルアップセミナー、 「スキルアップセミナー、農福連生活支援部会では、地域懇談会





Rainbött Net

生活支援部会

度の山田町の懇談会ではこれまで り返り、特に印象に残った活動が、 どに取り組みました。今年度を振 を中心に企画・運営・活動 山田町での地域懇談会です。今年 せて部会内での検討会や学習会な 携と就労アセスメントの進捗管 併理

る地域づくりに貢献できるよ えた方々に寄り添える関係性を る課題は地域の課題であると捉 たちは当事者・家族さんが抱え 不足」という声があります。 共通して出される「地域の理解 した。毎年、各地域の懇談会に の明るい未来が見えた気がしま の満面の笑顔に相互理解と山田 感謝の言葉が伝えられた時、そ 渡るようになり、交流会の最後 様子でしたが、徐々に打ち解 さんは、はじめこそ緊張 祉教育を受け当日に臨んだ生徒 交流会を行いました。事前に福 事者さんがスポーツを通じての 小学校を会場に、 るよう努めてまいります。 行政とタッグを組み、課題を抱 に生徒さんたちから大きな声で にない取り組みとして、 活動を継続・拡大している 今回の活動の成功をきっか 笑顔と歓声が体育館に響き 今後とも支援者さんや 誰もが安心して暮らせ 生徒さんと当 山田南 した た 私

神保健 部 会

中 村 (自立生活支援センターウイリー) 祐

神科病院からの地域移行希望者に 神保健部会では入所施設や精





精神保健部会

包括ケアシステムの構築について ています。 の議論や研修会の企画、開催を行っ 精神障がいにも対応した地域

との情報交換会」「生活困窮者の居 ・体制の構築のため、「不動産業者 今年度の主な活動は、 「グループホーム支援者 居住サポ

は、 域生活支援セミナーでた。また、宮古圏域地 呼ばないで」~もうい 省三先生を講師に迎え、にトークショー。青木 迎え、「これまでの人生 多くの示唆を得ること 地域社会等の幅広い視 状に偏らず、 う~と題し、 ちど、こころと向き合 と創作活動」をテーマ 研修会」を開催し ができました。 点からご講演いただき、 や人間関係、時代、文化、 ぼくのこころを病名で 画家の慧風さんを 生い立ち まし

深めていきたいと思い を果たしながら連携を 他職種それぞれの機能 ズと課題を拾い上げ、 よう、個別や地域のニー 当事者の声を聴き自 機関とのつながりを大切にし 輪を広げていけるよう関係諸

沽動を続けていきます。

きたいと思います。

(担当:高屋敷

Rainbött Net

小倉菫 (宮古恵風支援学校) 氏

る子ども、障がい児、発達障がい発達支援部会は、発達が気にな 者の支援に関わる関係者のスキル

います。 運営、 の開発や改善を図るため、 アップやニーズの把握、 事例検討会などを実施して 地域資源 企画·

身近な事例を交え分かりやすくお 第一回目に神奈川県を中心に活躍 されている篁一誠氏をお招きし 今年度の「発達障がい学習会」は 話していただき、理解を深め

昨年度宮古歯科医師会の協力 招きし開催予定です。その他、 られていました加藤潔氏をお 障がい学習会」の第二回目に す。また、1/18(土)「発達 相談をしていただいていま 招きした「そだちの相談会」 うことができました。みちの 支援センターゆい所長を務め く療育園の川村みや子氏をお 参加者同士で実践的に学び合 の中田洋二郎氏をお迎えし、 支援セミナー」は、立正大学 ることができました。「発達 調査を実施予定です。 にて実施したアンケートをも にれの里札幌市自閉症者自立 とに診療までの流れやニーズ 前職で社会福祉法人はる 発達や育ちに関する個別

今後も支援者による連携の



宮古圏域障がい者自立支援協議会





発達支援部会

見が提案されました。元来、宮古圏 を交え、意見交換会を行いました。 と題し、各部会の委員長と協議会長 こで「協議会専門部会委員長会議」 停滞感やマンネリ化してきていると きかけてきた感があります。しかし、 多くの課題や地域づくりについて働 10年ひと昔といいますが、これまで、の経過があったことに気づきます。 動してきました。振り返ると11年間 がい者自立支援協議会(以下、 ていけるよう、奢らず、 にしていきながら、協議会が発展し 達し地域課題に対応してきた地域と 域ではなく、横のつながりの中で発 域は社会資源が十分に整っている地 すが、各部会の委員長より多くの意 活性化が課題となってきました。そ の声を受けるようになり、協議会の 月日が経過するなかで、部会活動の 発達支援部会の4つの部会を設け活 担当者会議及び、個々の生活支援部 会という)の下部組織として、 いえます。今後も、つながりを大切 「3人集えば文殊の知恵」といいま 宮古圏域では、 権利擁護部会、精神保健部会、 継続性のある活動を展開してい 平成20年度より障 ささやかで

「福祉の現場から近

Report

議等、 握・分析、 域内において医療的ケア児等の支援 県内各地域で協議の場が展開される 行うこととされています。 支援に関する課題と対応策の検討を 事者団体等から構成され、 教育等の各分野の関係機関および当 ことが期待されています。 に携わる保健・医療・ (以下、「協議の場」という。) 医療的ケア児を支援する協議の場 地域全体の医療的ケア児等の 連絡調整、 支援内容の協 福祉・保育・ 現状の把 今後は Iţ 地

児が利用できる短期入所先が宮古圏 計26名の方にご参加いただき、 らざるを得ないという現実があり 域にはなく、 いただきました。 を養育するご家族から多くの ました。その中でも、 関の支援状況を共有することができ 県障がい に協議の場が開催されまし 宮古圏域では、 宮古圏域の関係機関等を合わせ 保健福祉課の担当者をはじ 内陸部の社会資源に 特に、 令和元年11月5日 医療的 医療的ケア が提言を アア児 各機

> 援の体制整備を出来るところから進 残されているなか、 課題ではなく、 制やレスパイト機能強化が必要であ ご家族の緊急時に備えた受け入れ体 日々の生活を共にするご家族は待っ 地域課題といえます。 ることを改めて認識することができ たなしの状況であり、速やかな体制 めていく必要があります。 ました。この課題は、 以前から抱えていた 医療的ケア児支 多くの課題が しし ま噴出 か た

せていただきます。 (担当:高屋敷)な場になることを願い実施報告とさ決に向けて希望を灯せる、そのよう今後、この協議の場が地域の課題解することはもちろんのことですが、ーつひとつのケースを丁寧に対応



ています。

Report

Report2

になる方、保護者及び支援に携わるめ見期から成人期にわたり発達す気を活動は、障がいの有無に関わらず、を活動は、障がいの有無に関わらず、を、の活動〉にて、平成26年度より毎年の活動〉にて、平成26年度より毎年の活動〉にて、平成26年度より毎年の活動とは、当法人が事の相談会』は、当法人が事

相談内容はさまざまです。

参加され

成長過程や、人生の節目によって、

迎えしております。の【みちのく療育園小児科医:川村の【みちのく療育園小児科医:川村図ることを目的とし、紫波郡矢巾町関係者等の方々のフォローアップを関係者等の方々のフォローアップを

た方々は、 他のご家庭のお子さんと 性等、 就職、 稚園・学校等の集団を経 の違いがあるのでは?と 現時点で我が子との接 その他、学習面、周りの 験することで新たに見え いう不安や、保育園・ 方はどのようにしてい していくものなのか?、 発達が進むことで、 わたります。年齢を重ね、 方々との関わり、進学、 た悩み等をお話されます。 受診・診断の必要 相談内容は多岐に

や悩みを、少なからずお持ちです。 川村先生が作られるとても和やかで、柔らかい雰囲気の中での相談会は、相談にいらした方々が自然と話は、相談にいらした方々が自然と話は、相談とを終えられると、「川村先生が作られるとても和やかで、柔らかい雰囲気の中での相談会で、柔らかい雰囲気の中での相談会に相談して良かっ

部と比較すると、 一川村先生 おになった」とお話になった」とお話になった」とお話になった」とお話になられます。

題となります。

・
にはなく、発達に関する相談の方々を含めたではなく、発達に関する相談ではなく、発達にではなどが、が、地域です。のがではなく、発達にではなく、発達に関する相談がが、大きのができる形を検討がいき援についる。

(担当:袰岩

どのように対応していく

べきか?、将来に向け





インタビュー

編集しお届けいたします。 までの経験を踏まえ、臨床と福祉の仕事をしている皆さんへメッセージをいただいていま 談笑しながらのやわらかい雰囲気でインタビューを進めることができました。自身のこれ インタビューを行いました。渡辺先生は乳幼児研究の世界的権威ですが、飾ることもなく 第29号の特集として、渡辺久子先生と鴇田夏子先生にレインボーネットに来ていただき 紙面の関係上、すべてを掲載することはできませんが、 渡辺先生がお話しした内容を

児童精神科医 渡辺久子 先生





を となってきたものについて教えま の福祉事業所へ届けられること いるのでは、渡辺久子先のでは、渡辺久子先のでは、変辺久子先の会員の皆さんと、岩手県内

ていただきたいのですが。

Q: 今日はよろしくお願い

野は、私が医師になった当時は何 が大きいのでしょうね。私は医師 でもいい「だめもとでもやってみ だったと思います。結果はどう り返ると、そのプロセスが大事 海外の文献を乱読しました。 教科書も日本には十分になく、 るなかで培ってきたと思います。 声をかけてもらい、小児科医を も整っていませんでした。先輩に 渡辺先生:子どもの頃の原体 しれません。 間に、耕されてきたものなのかも の子、その子によって違うから、 して、その後に、精神科で臨床す たかったのです。しかし、その分 になり、子どもの精神科医になり フイフワークとして、たどり着く 床だったと思いますね。いつも「子 ついてくる、その繰り返しの臨 ていなければ、結果はおのずと よう」という心境がいつもありま ともから学ぼう」という姿勢、そ したね。 プロセスの方向が間違っ

います。



渡辺先生:今の現場 から歓迎されない支 にありますよ。 は逆だなって思いま はそうなの?海外と に映りますか? 辺先生にはどのよう すべては現場 現場

> 援なわけでしょ。支える人の不 理士さんなら心理士さんに伝わ ら保育士さんに伝わる言葉、 用語ではなくて、保育士さんな は現場にしかありません。 Q:渡辺先生、鴇田先生には毎年 るしかないでしょうね。 やすには時代に合った形で進 題だと思います。その規模を増 足というのは、本当に大きな問 す。個別しかないのが現実の支 た支援には、やはり限界がきま い。また、 支援の輪も広がりが期待できな ることばで伝えていかないと、 パッケージングされ 専門 心

ない、

支える人も不

足している、

そのよ

支援への保障ができ

十分に生活

現実にあると思って ないというケースも

うな状況について渡

か も 足 なか、 のように映ります 東京で仕事をする いています。日々、 宮古圏域はど しげく通うな また海外へ

すべての本質は現場にあ

ただき、

宮古圏域に来ていただ

被災地の支援に関心をもってい

渡辺先生: するのがとても早 と感じます。 本質を吸収 地方の 東

います。

の自然、 びるでしょうねって思います。 すよ。ここで臨床したら力は伸 らしい土地ではないですか。 況があって、それを超えてすば あるけれど(笑)。 るからですよ。 年来るのは、 京は競争社会ですが、 風土、とても魅力的で 私たちも勉強に ほっとするの 震災という状 宮古に も な

総動員で人を支える

えで、 Q:最 など教えていただきたいのです していること、考えていること 後に、 渡辺先生がこれまで配慮 対人支援をするう

ਭ੍ਹ どおりにいかないこと、 うでしょう。 りにいかないことの連続だと思 重ねていく。 なんですよね。人への支援もそ れだけ幅の広いものだと思い すよね(笑)。 や宇宙のこと、すべて総動員で 渡辺先生:身体、 いうことのみでではなく、 ます ながら人を支えてほ かは二度と同じ時間は戻らな 大袈裟ですか(笑) 「今この瞬間に」の繰り返し 今この瞬間に向き合 今この瞬間を積み 人を支えるってそ 福祉の現場も理想 精 神、 宇宙な 計画通 心 いと思 自然 ま

もの

Ó

そこに乗れ

制度上は整ってきた

ージングされて、

ジョンでも話しましたが、

本質

Q

福

祉

現 ジ 場 の

実践

援者は駄目です。

ケース

ーつひ

実は学問なんですよね。

在

は支援

が

午前中の

ケースのスー

パー

思うことですが、

れると思いますよ。 てくれると思いますので、 またお会いしましょう。

写真右下 渡辺久子(わたなべひさこ)先生 1948年東京生まれ。73年、慶應義塾大学医学部卒業、同学部小児科教室。75年、同学部精神科教 室入室。76年、小児療育相談センター児童精神科 勤務。82年、横浜市立市民病院精神科勤務、その後、 慶應義塾大学医学部小児科講師、世界乳幼児精神 保健学会副会長 (アジア地区担当)。 児童思春期精神医学、精神分析学、乳幼児 専攻 精神医学。

写真左下 鴇田夏子(ときたなつこ)先生 東京都出身。小児科医。1997年昭和大学医学部卒 業後、慶應義塾大学医学部小児科学教室入局。 2012年永寿総合病院小児科部長を務め、2013年 より慶應義塾大学医学部小児科学教室小児精神保健 班部長として帰室。

ンタビューの終了時間が近づい Q スのスーパービジョンをしてく てきましたが、 ています。 渡辺先生:また伺いたいと思 古圏域に来ていただけますか? は ありがとうござい 渡辺 先 生、 鴇田先生も来年も来 また、 鴇 \blacksquare みなさん、 先 ました。 来年も 生 今日

「地域活動支援センターみやこ」では、障がい者等(身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、障がい児及び難病等)を対 象に、自立の促進、生活の改善、身体機能の維持向上、社会との交流の促進を目的に、創作的な活動、SST(社会生活技能訓練)・ ピアカウンセリング等の活動、各種サークル活動を行っています。また、専門の職員を配置し、医療・福祉および地域の社会 基盤との連携強化のための調整、ボランティアの育成、障がいに対する理解促進を図るための普及啓発事業を実施しています。





でした。ご協力いただいた皆様ありがとう しざいました。 障がいがある方もない方も、

みく

んな笑顔

を開催しました。 民交流センター) 年度は初めての場所となるイーストピアみやこ にて、12月1日に「はあとふるフェ

しておりましたが、予想以上に当事者・一般の皆様に

例年とは違う形、場所のため、

不安半分期待半分でお待

取り組んでいる作品を見てい よい刺激となりました。 姿が印象的でし 年齢層の方に体験し こども縁日やボッチャ体験コー 地活活動体験、 いただきました。 作ってあそぼうのコ 展示コー ただき、 ナー ただき、 完成し ナーではお子さんを中心 では日頃地活の活 当事者の皆さ た作品を手に喜ぶ では幅広い んの 動で

はあとふるフェスタ内容 ☆地活作品展示 ☆地活活動体験



☆作って遊ぼう ☆こども縁日 ☆ボッチャ体験













共に暮らしやすい地域や環境について考え、意見交換をする事を目的として実施宮古圏域4市町村を回り、障がいの有無に 関わらず同じ地域で生活する方々が宮古圏域障がい者自立支援協議会 生活支援部会が毎年開催している「地域智 今年度は前半に軽スポーツの交流会、 後半はグループ懇談会を行いました。 「地域懇談 ています。

〇田野畑

した。 然に交流していたのが印象的で 皆さんにやり方を教わる等、 験会を実施しました。初めこそ こちない参加者さん」 「手際のよい利用者さん」と「ぎ が見られましたが、 ハックの家で行う裂き織の体 という対 利用者の

〇山田町

て良い刺激になったように感じ や活発な姿に触れ、 授業を行い、 きました。子供たちの元気な声 う」というテーマで福祉教育の 山田南小学校4年生の皆さん 事前に 「障がいって何だろ 交流会にご参加頂 お互いにとっ

てみたい」との声を多く頂戴し パラリンピックの正式競技でも ていただき、ゲームも白熱して れました。 あります「ボッチャ」を取り入 ました。 いました。「楽しかった、またやっ 前段の軽スポーツ交流会には、 皆さんに興味を持っ



たいと思います。

岩泉町

田野畑村



宮古市

て頂きながら、入所されている 参加者で共有できた貴重な機会 る率直な思いやご意見を伺い、 皆さんのこれからの生活に対す 方々と交流する場として開放し だきました。 入所者の皆さんにもご参加いた となりました。 今回は 松山 入所施設を地域の |荘をお借りし

それらを話し合う一方、 活へ介入する難しさや住民同士 立場の方々と意見を交わしあう わたっている事を実感しました。 の関係性への配慮など、 高齢化に伴う将来への不安、 の地域で抱える課題は多岐に 今年度の地域懇談会を通し 様々な それぞ

らも、今自分たちがく働きかけをしながた。新しい社会資源 みを再確認できまし 中で地域の魅力や強 作りに寄与し らせるコミュニティ の魅力を引き出しつ もが安心して暮 め直して、 している地域を

ほかで

第3回 高次脳機能障がい家族教室 Ě 時:1月15日(水

場:フラットピアみやこ 10時~12時

会

(いわてリハビリテーションセ 容:ボッチャとカルタ 1階 講習室

内 ます) ンター作成のカルタを使用し

第2回 宮古圏域発達障がい学習会

会 第1 《第2部》 場:イーストピアみやこ 時:1月18日(土) 部 14時30分~16時 13時~14時15分

内 容 1階 会議室1

を考える~ ~行動障がいがある方の支援 施設専門家になるメソッド 、前職)社会福祉法人はるにれ 師

■会員数の状況(令和元年11月30日現在)

対象者:支援者(福祉関係者)

第2部》

講演会 事例検討

第一部》

加藤潔氏

の里

札幌市自閉症者自立

支援センター ゆい 所長

医療関係者、教育関係者等)

●問い合わせ先 レインボーネット事務局

TEL 0193-64-7878 FAX 0193-77-3921

個人会員 94名(正会員 69名・賛助会員 25名)、団体会員 35団体(正会員 28団体・賛助会員 7団体)

○団体会員のご紹介(令和元年11月30日現在・順不同)

団体名(正会員)			
山田町手をつなぐ親の会	望みの園はまなす	ワークプラザみやこ	あっとほうむ life みやこ
宮古市末広町商店街振興組合	SELPわかたけ	宮古恵風支援学校	岩泉町社会福祉協議会いずみの里
アトリエSun	宮古山口病院	わかたけ学園保護者会	みやこ手をつなぐ育成会
みやこワークステーション	ジョブ・パートナー山田	救護施設松山荘	わかたけ学園
ハックの家	宮古市身体障害者福祉会	はあとふるセンターみやこ	三陸病院
きぼうハウス	工房まんさく	宮古市社会福祉協議会	宮古アビリティーセンター
県北緑化株式会社	岩手県沿岸知的障害児施設組合はまゆり学園	自立生活支援センター・ウイリー	いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ沿岸地区
団体名(賛助会員)			
そけい整骨院	岩泉町身体障害者福祉協会	みやこボランティア連絡協議会	花鶏学苑
川井産業開発公社	宮古職業訓練協会	あおば工房	





正会員1,000円 替助会員 500円



5,000円 1,000円 正 会 員 賛助会員



◆発行責任者 発 ・企画・編集 URL http://www.miyako-rainbow.com/ E-mail info@miyako-rainbow.com FAX 0193-77-3921 はあとふるセンターみやこード 岩手県宮古市緑ヶ丘2番3号 推進ネット(レインボーネット) レインボーネット事務局 TEL 0193-64-7878 NPO法人宮古圏域障がい者福祉 行 会長 刈屋 裕之

ポーツを楽しみましょう!ります。2020年は皆でス入しイベント等で実施してお競技のボッチャのセットを購 が日本で行われるなんて楽しクの年。世界一を決める大会オリンピック・パラリンピック・パラリンピッラグビリンピッテが、今年はラグビーW杯に熱狂した のでTV観戦ですが…みですねぇ。チケットはない レインボーネットでもパラ

大事異動、3年ぶりのレイン人事異動、3年ぶりのレイン いものです。 【阿部(一)】 に、何事も楽しむ1年にした うか。去年の反省はほどほど 2019年は年号も変わり、

号を無事発行することができます。おかげで、機関紙第29ただいた皆さまに感謝いたし関わらず、発行に協力してい と思いますが、引き続きよろ落ち着きなく仕事をしている ました。今年も、バタバタとました。2020年が始まり しくお願い致します。【高屋敷】 毎号、慌ただしい編集にも

編 集後 記